

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	都市建設部		
	課 名	土木課		
	係 名	維持係		
	記 入 者		電話(内線)	240

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	舗装補修事業			(3) 事業の 優先度	A			
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市				
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)			
② 施策コード	23301	(総合計画掲載ページ 77～79 ページ)			会計区分		一般会計				
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)			財源区分	市単独						
基本施策	2-3便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)			予算科目	款 8		項 2	目 2			
施策	③道路維持管理の充実			予算書上の	市道舗装補修事業費						
施策内容	1安全に利用できる道路管理			事業名称	(予算書 135 ページに掲載)						
(5) 事業期間		開始	昭和	30	年	4	月から		(8) 事務分類	自治事務	
	終了				年	月まで (力年)		根拠法令	道路法第42条		

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
道路の利用者	安心・安全な道路とする。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	
道路の穴・段差・路肩の崩れ等の危険箇所の補修を行う。	
	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし) 住民からの要望が多く、道路の安全確保については、ますます緊急的な対応が求められている。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
舗装の経年劣化に伴うひび割れや段差に加え、近年の集中豪雨による路肩や道路法面の崩れが多数生じている。市民からの舗装補修要望は多く、予算が追いつかない状態であり、道路の状態や利用環境により、緊急に対応する場合と年次計画に組み込み順番に対応していく場合とがある。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映							
実施計画													
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）							
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度			
(1) 事務事業費の コスト	事業費	委託料		3,154		1,200							
		工事請負費		143,142		136,400							
		原材料費		7,184		5,200							
	合計		153,480		142,800								
	財源	国庫支出金 (千円)											
		県支出金 (千円)											
		地方債 (千円)											
		その他特定財源 (千円)											
		一般財源 (千円)		153,480		142,800							
		合計 (千円)		153,480		142,800							
補助・起債制度名													

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	道路の穴、段差、路肩等の補修	目標値	km		3	3	3	3
		実績(見込)値		3	3			
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	要望・相談に対しての達成率	目標値	件		130	130	125	125
		実績(見込)値		105	110	110	110	110
		達成率		84.0 %	88.0 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
要望、相談については、出来るだけ現場確認から対応までを迅速に行うことで、より多くの補修箇所を効率的に対策出来るよう取り組んでいる。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	誰もが安全で快適に通行できる道路は市民生活における重要基盤である。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	緊急性、必要性を考慮し、道路管理者が実施することが責務である。				
	手段の妥当性	A	妥当である	緊急性を鑑み、対応できる業者を選定して発注している。				
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	年々要望による補修箇所が増える中、緊急性必要性に加え、コスト効率につながる費用対効果を加味し、優先順位をつけて予算内で処理を行っている。				
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	市内全域を対象に道路管理者が実施すべき内容であり、公平性は高い。				
有効性	成果の向上	A	上がっている	生活道路の安全確保につながっている。				
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	年次計画で対応しているものについては順調に進んでいるが、住民からの要望を見る限り市道全体をカバーするには至っていない。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
道路補修要望が増加傾向をたどる中、削減もしくは現状維持の予算および人員で対応している状況であるので、市道全体をカバーすることは難しい。また、計画的補修と緊急対応が必要であると思われるものでは、迅速な対応が出来ないことが問題である。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
道路補修要望箇所が増加傾向をたどる中、削減または現状維持の予算および人員で対応している状況で、市内全域をカバーするには至っていない。また、緊急性の高いケースについては安全第一であるため、コスト効率のみを追求することは難しいことから、これまでの補修実績データを整理し、年次計画に先立つ市道整備計画や補修基準等の指針を数年毎に見直しするなど、出来る限り計画的な整備を行える体制づくりを進めたい。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠			
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。			
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			補修箇所が増えていく中で、常にその箇所に応じた費用対効果を考慮し、最適な施工方法を選定してコスト削減、成果向上を図る。なお、人と金の拡充については、財政状況と出来る限り調和を図りながら進める。			
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。			